

2014 年度(平成 26 年度) 事業報告書

2015 年 4 月 30 日

さいたま市中央区大戸 5 丁目 17 番 1 号
特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会
代表理事 久我 祐子
電話番号 048-832-8271

1 事業の成果

【普及から定着へ】

2013 年度は、対象地域の学校で、学校図書活動、有機菜園活動、サッカーを初めとするスポーツ活動の普及がみられたが、同地域での活動が 2 年経過した 2014 年度は、一般的にそれらの活動が有効な課外活動として各学校で定着してきたといえる。また、多くの学校では、授業にも、学校図書や菜園を活用し、授業内容を充実・向上させている。各学校は、それぞれの環境に合わせて独自の方法で各活動に取り組むようになってきており、活動の根付きと自立がみられるようになってきた。

【生徒の主體的な関わり】

菜園活動および学校図書活動に関しては、各対象校で委員会を充実化し、委員会生徒たちには、活動だけでなく、管理や運営にもできるだけ積極的に参加させた。生徒達を自主的に活動に総合的に関わらせることで、知識や技術だけでなく、リーダーシップや協調性、自主運営能力を身につけるなど、総合的なエンパワメントに繋がっている。また、委員会生徒間で活動の引き継ぎが行われるなど、委員会を通して、各校の活動の継続と定着のシステムが築かれた。

学校図書支援活動事業

昨年度の対象校 32 校に新規校 8 校を加え、40 校が対象校となった。少ない予算のなか、資材・物品購入を極力控えて、図書委員会教師や生徒の育成など自立に繋がる事業を進めた。設備がある程度整っている 32 校の継続校に関しては、蔵書数を充足することで図書環境を改善した。新規 8 校は、各校にあるスペースや物資を利用して図書室を作るなど、あるものを有効活用して設備を整えた。図書研修会を開催する代わりに、TAAA の司書スタッフが、巡回訪問ごとに、図書委員会教師や生徒と向き合い、図書運営・管理方法を教えていった。その結果、昨年度と比べて、多くの学校で、図書委員会の運営能力が飛躍的に向上した。

移動図書館車は修理が多くコスト高になったが、有効活用し、各校にないジャンルの本を紹介するなど、読書への興味を育てていった。外部要素として、2014 年度は対象地域内の人口移動がますます激しくなり（立ち遅れている山岳部から、開発が多少進んだ沿岸部への人口流入）、それにともない、生徒数が変動し教師の異動が頻繁に行われた。このような急な教師・生徒数変動は、教育環境に混乱を招き、教師の手がいままで以上に行き届かず授業の劣化が進んだ。教育環境劣化のなかで、生徒達が自発的に読書ができる環境を提供した当事業は、生徒たちの読み書き能力を支える大きな助けとなった。

上記の事業を支えるために、日本では、個人やインターナショナルスクールから英語の本を集め、毎月梱包作業をして、12,078冊の本を現地に送った。また、153個の算数セット収集し送った。算数セットは、生徒達が自由に数遊びができるように、対象校の図書室に置かれた。

学校およびコミュニティー菜園支援活動事業

食糧確保としての重要性の認識

学校菜園活動の主な目的は、将来地元で家庭菜園や小規模農業を担う人材の育成である。しかし、対象地域は十分な食糧確保が困難な貧困地域であるため、食糧確保としても大きな役割も担っており、日頃から対象校では収穫を給食の食材に利用したり、孤児家庭・困窮家庭への配布を行っている。

2014年度第4学期（10-12月）に州教育省からの給食業者への支払い延滞により給食食材が届かない事態が発生したため、この期間は各対象校で畑の収穫を主な食材にして、生徒に給食を出すことになった。畑の収穫利用により生徒達の健康と栄養を最低限維持できたことにより、学校菜園の食糧保障としての有効性を、対象者間およびTAAA間で再認識した。また、この事態により、対象地域の食糧保障の脆弱性が明らかになった。

事業対象者の育成

週日はほぼ毎日、TAAAスタッフである2名の農業指導員が対象校を巡回訪問し、生徒・教師・保護者に有機農業の実地指導を行った。各校は、環境が異なることから、水の確保や家畜侵入など異なる問題をかかえており、それぞれの問題解決のアドバイスを行い、事業対象者と試行錯誤を重ねた。その他、有機農業専門家による研修会や有機農場訪問・研修を定期的に行い、事業対象者の技術、知識、有機農業の重要性への理解を向上した。また、学校の活動が定着してきたことから、生徒と保護者に働きかけて、家庭菜園作りを推進した。

2014年11月末（学校の年度末）調査時点で、対象校40校のうち学校菜園に携わる生徒は1430名で、総生徒数の約10%になった。そのうち家庭菜園を始めた生徒数は296名となった。

全般的に小学校では生徒が楽しく活動に取り組んでいるが、高校では活動に積極的に参加する生徒と、全く興味のない生徒がはっきりと分かれた。高校で活動に取り組む生徒は人数的には多くはないが、将来の有機農業リーダーとなる潜在能力が高い。彼らにとって、当事業は、近い将来の就農を視野に入れた技術習得の機会となった。

卒業生グループの活動について

卒業生4グループの活動は小規模ながら収穫物の販売や各グループ独自の活動により、地域内で認識されてきている。次年度はグループを協同組合などの組織化を計画しており、地域内でのモデルケースとなることを目指している。

Mthwalume グループは、男性メンバー2名を中心に着実に活動が進んでおり、他グループのメンバーが畑を訪問して、リーダーから土壌の改善やマーケティング方法などを学んだ。グループは学校のフェンスに広告を出して収穫物を地域住民に販売したり、近くのクリニックに訪問販売を行ったりしている。山間部 Thulubheke グループの活動も順調に進んでおり、特に昨年末はジャガイモが豊作で、地域住民や年金支給所での販売を行った。Impumelelo グル

ープは沿岸部で土壌が砂地のためタマネギがよく収穫でき、販売で得た収入を元手に伝統衣装を購入して学校にレンタルしたり、手作りビーズアクセサリを販売したりと新しい活動にも着手している。Rosettenville グループメンバーは、学校内の灌漑用水確保やフェンスなどの状況が悪化したため家庭菜園を続けていたが、グループを再結成して地域内に共同菜園を設置する準備を進めており、それに向けて学校内の育苗所で苗作りを行っている。

スポーツ・課外活動振興事業

日本では、当事業の活動が多くの人や団体に評価され、460個のサッカーボールを収集し、南アフリカ共和国に送ることができた。現地では対象校40校に配布した。日本からの視察訪問の際は、ユニフォームがないために試合に出られなかった高校に、中古のサッカーユニフォーム一式を寄附した。対象地域の治安は悪化し、青少年のドラッグや犯罪は増加している。原因として、若者の失業率の高さと閉塞感がある。犯罪の影響を受けやすいティーンエイジャーが、休み時間や放課後にスポーツなどで健全に過ごすことはとても重要であることから、当事業は、教師たちから大変喜ばれた。

2 事業の実施に関する事項 (2014年4月1日 ~ 2015年3月31日)

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数		受益対象者の範囲及び人数		支出額(千円)
				南ア側	日本側	小・中・高校 40校 専門学校 1校	教師 320人 生徒 120,000人	
学校図書支援活動事業	<p>基礎教育支援のための学校図書環境改善および読書推進活動</p> <p><u>日本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●英語の本の収集、レベル・ジャンル分け、梱包、発送作業 ●算数セットの収集、梱包、発送作業 ●当事業ポスターを作成し支援者に配布 <p><u>南アフリカ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本から届いた英語の本を各対象校に配布。 ●学校図書室または学級文庫の設置支援（新規8校）。 ●学校図書室の環境改善（継続32校） ●訪問指導による司書教師の育成 ●各対象校の図書委員会設立と活動推進への支援。 ●訪問指導による図書委員会生徒への図書室運営指導 ●移動図書館車による学校巡回訪問。本の貸し出しおよび図書の扱い方などの指導。 	月～日	日本・南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トット・ウムズンベ学区	南ア側 4人 日本側 15人			1,888	
学校およびコミュニティ菜園支援活動事業	<p>学校菜園およびコミュニティ菜園における地域環境保全型農業促進指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ●菜園活動普及のための人材育成 <p>巡回訪問による農業指導員の指導、研修会開催、有機農場で</p>	月～金	南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トット・ウムズンベ学区	南ア側 5人 日本側 3人		小・中・高 40校	<u>直接</u> 教師 40人 生徒 360人 保護者 120	8,440

	<p>の現地指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ●菜園活動システムの維持と促進 各対象校の菜園委員会の運営システムを強化 ●学校から家庭菜園への促進 生徒を通して保護者への家庭菜園普及活動 ●学校間のネットワーク構築 学校を4つのクラスターに分け、クラスター内の菜園担当教師間のネットワークを構築。 学校間で種や情報のシェア促進 ●事業対象者とカウンターパートの協力体制強化 州教育省学区長からの学校へのサポート体制を強化 州農業省サテライトオフィス担当者とURDO(地元コミュニティーグループ)からの卒業生グループへのサポート体制を促進 ●卒業生グループへの事業管理指導と販売ルート開拓支援 					<p>人 卒業生グループメンバー40人</p> <p>間接 教師・生徒 8,000人 地域住民 2,000人</p>	
スポーツ・課外活動振興事業	<p>日本 サッカーボール収集、梱包、発送作業</p> <p>南アフリカ サッカーボールの配布およびTAAAスタッフと生徒たちとのサッカー交流</p>	月～日	南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トウトン・ウムズンベ学区	南ア側3人 日本側3人	小・中・高40校 その他	生徒 8,000人	99
合計							10,427